お台場海浜公園内旧防波堤（2 島）における鳥類のモニタリング調査
夏季調査（7 月）報告書

2021 年 8 月　一般社団法人お台場海づくり協議会

１．調査目的

お台場海浜公園内旧防波堤における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

２．調査対象地域

お台場海浜公園内旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50 m 程度）

３．調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1　調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 3 年 7 月 6 日（火）	8：00～14：00	雨のち曇

４．調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（２）～（４）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（５）の調査を行った。

（１）　船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（２）　ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

（３）　定点観察調査

2 島の各 2 点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

（４）　任意観察調査

2 島を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（５）　その他

- 自動撮影カメラによる調査

  第 5 回の秋季調査においてホンドタヌキのため糞が確認されたため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に 1 台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から 78 日間であった。（第 6 回春季～夏季調査）

- その他の生き物の記録

  鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。

船上センサス

ラインセンサス

定点観察調査

任意観察調査

写真 1(1)　各調査手法における調査風景

自動撮影カメラ設置による調査

写真 1(2)　各調査手法における調査風景

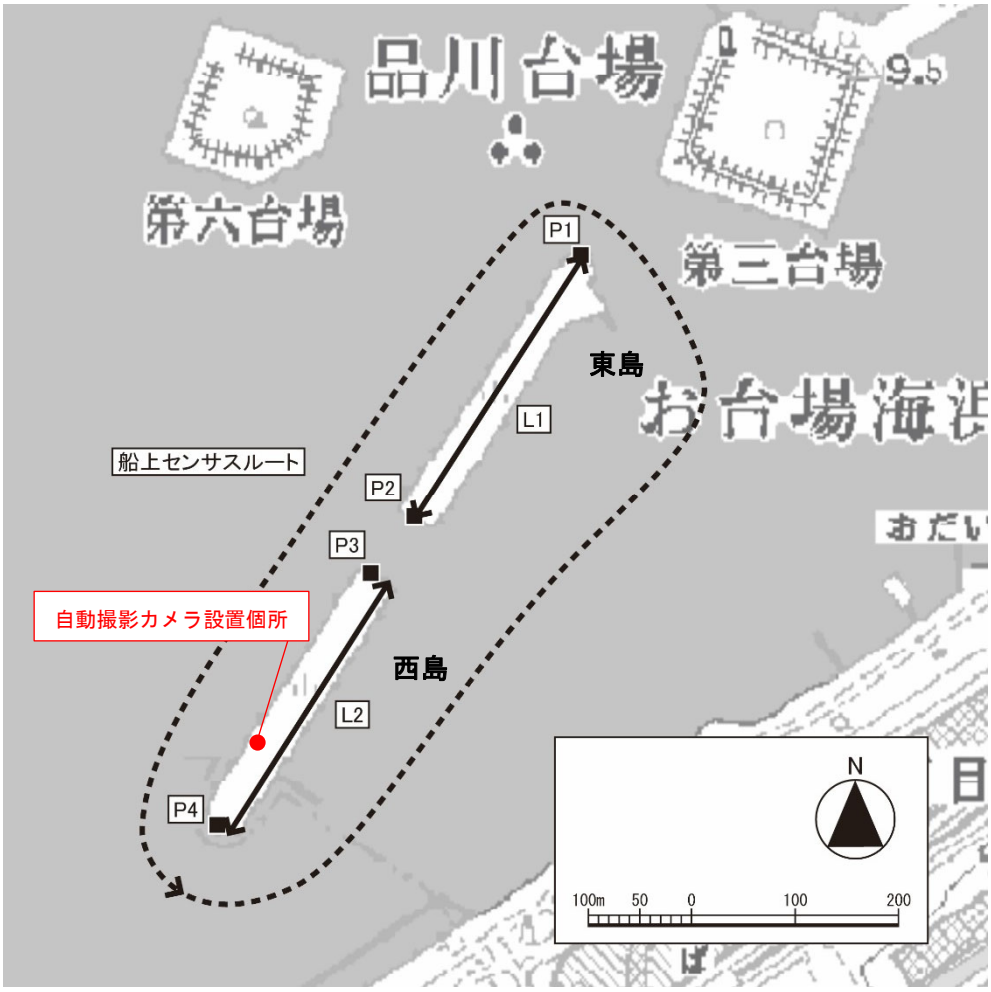


図 1　調査地点

５．評価方法

（１）　調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果の評価をした。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 6 回の夏季調査にあたる。

表 2　調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季

（２）　重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。このうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3　重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天　:天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR＋EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR＋EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 ＊ :留意種

６．調査結果

（１）　現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、8 目 18 科 21 種が確認された（表 4)。
- 確認種のおよそ半数は水域やその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやカワウ、アオサギ等 10 種が確認された。島内では、シジュウカラやヒヨドリ、カワラヒワ等の森林やその周辺に生息する鳥類が 4 種確認されたほか、ツバメやムクドリ、ドバト等の都市部で見られる鳥類が 4 種、オオヨシキリ等の草地で見られる鳥類が 1 種、様々な環境で見られるキジバトやハシブトガラスの鳥類が 2 種確認された（表 4)。
- 渡り区分別にみると、キジバトやシジュウカラ、スズメ等の留鳥（ある地域で一年中見られる種）が最も多く、次いでコチドリやツバメ、オオヨシキリ等の夏鳥（ある地域で夏に見られる種）が確認された。
- 重要種はダイサギ、コサギ、コチドリ、イソシギ、ウミネコ、オオタカ、カワセミ及びオオヨシキリの合計 8 種が確認された（表 4)。島内では、護岸や人工構造物で休息するダイサギやコサギ、イソシギ、ウミネコが、土嚢にとまるカワセミが、常緑広葉樹にとまるダイサギが、ヨシ原で飛翔やとまりを繰り返すオオヨシキリが確認された。また、島周辺の海域では、上空を通過するダイサギやコサギ、コチドリ、ウミネコ、オオタカが確認された。
- 外来種はドバトが確認された（表 4)。
- 確認個体数が特に多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 200 個体（表 5)、ラインセンサスでは合計 70 個体が確認され、優占度は東島で 20%、西島で 76%を占めた（表 6)。定点観察調査では合計 103 個体（表 7）が確認された。島内の落葉広葉樹や護岸等にとまり休息する多数の群れ、海域で遊泳する個体が少数確認された。また、巣上に座る個体(繁殖状況は不明)や、常緑広葉樹にとまる幼鳥 1 個体が確認された。その他の巣の上にはカワウは座っておらず、ほとんどのつがいは繁殖が終わったものと考えられる。
- カワウに次いで確認個体数が多かった種はアオサギであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 47 個体（表 5）が確認され、護岸や干潟などで休息する群れが確認された。
- 常緑広葉樹林では地面で採食するスズメや、枝で休息するキジバトが、ヨシ原ではヨシをついばむカワラヒワ等が確認された。海域では東京 2020 オリンピック競技大会関連で仮設された人工構造物の上で休息するアオサギやウミネコ等が確認され、鳥の島やその周辺を餌場や休息場として利用している様子が確認された。

（２）　過去調査との比較

それぞれの前回調査（夏季）との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査（夏季）との確認種数の比較は、第 5 回では東島で 20 種、西島で 16 種、合計 21 種、第 6 回では東島で 19 種、西島で 17 種、合計 21 種であった（表 8)。第 5 回及び 6 回で共通して確認された種は 19 種と 9 割ほどであり、鳥類相に大きな変化はなかった。
- 第 5 回で確認されず第 6 回で確認された種はコチドリ及びオオタカの 2 種であり、第 5 回で確認され第 6 回で確認されなかった種はキアシシギ及びオナガの 2 種であった（表 8)。コチドリ及びオオタカは、これまでも不定期的に記録されている種であり一時的に鳥の島に飛来したものと考えられる。キアシシギ及びオナガは記録が少ない種であるが、今後も記録される可能性はある。
- 第 5 回より第 6 回で個体数が多く、優占度が高い種はカワウであった（表 9、10、11)。特に船上センサス時に護岸で休息する個体が多かった。西島では各センサス時において個体数の増加が、東島ではラインセンサス・定点観察時において個体数の減少がみられた。上陸後、西島周辺上空や第六台場方向へ飛翔する個体が多く確認され、一時的に東島周辺から群れがいなくなったものと考えられる。

（３）　その他

その他方法（自動撮影カメラ設置による調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による結果について鳥類 4 目 5 科 5 種、爬虫類 1 目 1 科 1 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、カワウ、オオタカ、ハシブトガラス及びシジュウカラの 5 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 重要種として、オオタカ（環境省 RL：準絶滅危惧、東京都 RL：絶滅危惧 IB 類）の成鳥雌個体が 6 月 25 日、26 日に撮影された。
- 鳥類調査時において爬虫類のアオダイショウ 1 種が確認された。春季調査では東島で確認されたが、今回は西島において確認された(両島で生息しているかは不明)。

表 4　鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期 夏季(7 月)		重要種選定基準			
					東島	西島	①	②	③	④
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
4	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
5			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
6			コサギ	留鳥	○	○				VU
7	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○					CR
8		シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
9		カモメ	ウミネコ	留鳥	○	○				＊①
10	タカ	タカ	オオタカ	留鳥	○				NT	EN
11	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	○					VU
12	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
13		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
14		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○				
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
16		ヨシキリ	オオヨシキリ	夏鳥	○					CR
17		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○				
18		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
19		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥		○				
20		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○				
21	ハト	ハト	ドバト	留鳥		○				
合計	8 目	18 科	21 種	－	19 種	17 種	0 種	0 種	1 種	8 種

注1.　分類、配列等は原則として「日本鳥類目録　改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注2.　重要種選定基準は表 3 に従った。

注3.　重要種選定基準④　ウミネコの＊①:準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)

表 5　船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計個体数
				夏季(7 月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	3	3	6
2	カツオドリ	ウ	カワウ	69	131	200
3	ペリカン	サギ	アオサギ	4	43	47
4			ダイサギ	1	3	4
5			コサギ	1	2	3
6	チドリ	シギ	イソシギ	0	1	1
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	0	1
8		シジュウカラ	シジュウカラ	0	1	1
合計	5 目	6 科	8 種	79	184	263
				6 種	7 種	8 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録　改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6　ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計個体数
				夏季(7 月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	2	2%	2
2	ハト	ハト	キジバト	2	7%	3	4%	5
3	カツオドリ	ウ	カワウ	6	20%	64	76%	70
4	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	1%	1
5	チドリ	シギ	イソシギ	4	13%	1	1%	5
6		カモメ	ウミネコ	1	3%	1	1%	2
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	10%	2	2%	5
8		シジュウカラ	シジュウカラ	12	40%	0	0%	12
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	0%	2	2%	2
10		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	2	2%	2
11		スズメ	スズメ	1	3%	6	7%	7
12		アトリ	カワラヒワ	1	3%	0	0%	1
合計	6 目	12 科	12 種	30	100%	84	100%	114
				8 種		10 種		12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録　改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7　定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計個体数
				夏季(7 月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	5%	8	33%	6	10%	8	13%	23
2	カツオドリ	ウ	カワウ	7	37%	6	25%	41	68%	49	78%	103
3	ペリカン	サギ	アオサギ	4	21%	2	8%	2	3%	5	8%	13
4			ダイサギ	0	0%	1	4%	1	2%	0	0%	2
5			コサギ	0	0%	0	0%	1	2%	1	2%	2
6	チドリ	カモメ	ウミネコ	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1
7	タカ	タカ	オオタカ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1
8	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	5%	2	8%	2	3%	0	0%	5
10		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	2
11		ツバメ	ツバメ	0	0%	5	21%	0	0%	0	0%	5
12		スズメ	スズメ	4	21%	0	0%	4	7%	0	0%	8
合計	7 目	10 科	12 種	19	100%	24	100%	60	100%	63	100%	166
				7 種		6 種		9 種		4 種		12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録　改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8　前回調査結果との比較：確認種（夏季）

No.	種名	調査時期			
		第 5 回 (R1～R2)		第 6 回 (R2～R3)	
		夏季(7 月)		夏季(7 月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	キジバト	○	○	○	○
3	カワウ	○	○	○	○
4	アオサギ	○	○	○	○
5	ダイサギ	○	○	○	○
6	コサギ	○	○	○	○
7	コチドリ			○	
8	キアシシギ	○			
9	イソシギ	○	○	○	○
10	ウミネコ	○	○	○	○
11	オオタカ			○	
12	カワセミ	○		○	
13	オナガ	○			
14	ハシブトガラス	○	○	○	○
15	シジュウカラ	○	○	○	○
16	ツバメ	○	○	○	○
17	ヒヨドリ	○		○	○
18	オオヨシキリ	○	○	○	
19	ムクドリ	○	○	○	○
20	スズメ	○	○	○	○
21	ハクセキレイ	○			○
22	カワラヒワ	○	○	○	○
23	ドバト		○		○
合計	23 種	20 種	16 種	19 種	17 種
		21 種		21 種	

表 9　前回調査との比較：船上センサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期			
		第 5 回 (R1～R2)		第 6 回 (R2～R3)	
		夏季(7 月)		夏季(7 月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	2	8	3	3
2	カワウ	29	33	69	131
3	アオサギ	10	8	4	43
4	ダイサギ	6	0	1	3
5	コサギ	0	0	1	2
6	イソシギ	0	1	0	1
7	ウミネコ	1	1	0	0
8	ハシブトガラス	4	0	1	0
9	シジュウカラ	0	0	0	1
10	カワラヒワ	1	0	0	0
合計個体数		53	51	79	184
合計島別種数		7 種	5 種	6 種	7 種
合計種数		8 種		8 種	

表 10　前回調査との比較：ラインセンサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期							
		第 5 回(R1～R2)				第 6 回(R2～R3)			
		夏季(7 月)				夏季(7 月)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	3%	6	7%	0	0%	2	2%
2	キジバト	2	3%	1	1%	2	7%	3	4%
3	カワウ	27	39%	70	79%	6	20%	64	76%
4	アオサギ	7	10%	1	1%	0	0%	1	1%
5	ダイサギ	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
6	イソシギ	0	0%	0	0%	4	13%	1	1%
7	ウミネコ	0	0%	1	1%	1	3%	1	1%
8	ハシブトガラス	5	7%	4	4%	3	10%	2	2%
9	シジュウカラ	4	6%	0	0%	12	40%	0	0%
10	ヒヨドリ	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
11	ムクドリ	0	0%	1	1%	0	0%	2	2%
12	スズメ	14	20%	4	4%	1	3%	6	7%
13	カワラヒワ	6	9%	1	1%	1	3%	0	0%
合計	13 種	69	100%	89	100%	30	100%	84	100%
		9 種		9 種		8 種		10 種	

表 11　前回調査との比較：定点観察結果（夏季）

No.	種名	調査時期															
		第 5 回(R1～R2)								第 6 回(R2～R3)							
		夏季(7 月)								夏季(7 月)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	4	8%	0	0%	1	3%	0	0%	1	5%	8	33%	6	10%	8	13%
2	キジバト	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3	カワウ	38	72%	18	55%	29	74%	7	41%	7	37%	6	25%	41	68%	49	78%
4	アオサギ	3	6%	2	6%	0	0%	0	0%	4	21%	2	8%	2	3%	5	8%
5	ダイサギ	0	0%	1	3%	1	3%	2	12%	0	0%	1	4%	1	2%	0	0%
6	コサギ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1	2%
7	ウミネコ	0	0%	3	9%	1	3%	3	18%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
8	オオタカ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%
9	カワセミ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%
10	ハシブトガラス	2	4%	1	3%	0	0%	0	0%	1	5%	2	8%	2	3%	0	0%
11	シジュウカラ	2	4%	4	12%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%
12	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	5	21%	0	0%	0	0%
13	オオヨシキリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	ムクドリ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
15	スズメ	2	4%	2	6%	5	13%	3	18%	4	21%	0	0%	4	7%	0	0%
16	カワラヒワ	0	0%	1	3%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
17	ドバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	17 種	53	100%	33	100%	39	100%	17	100%	19	100%	24	100%	60	100%	63	100%
		8 種		9 種		7 種		6 種		7 種		6 種		9 種		4 種	

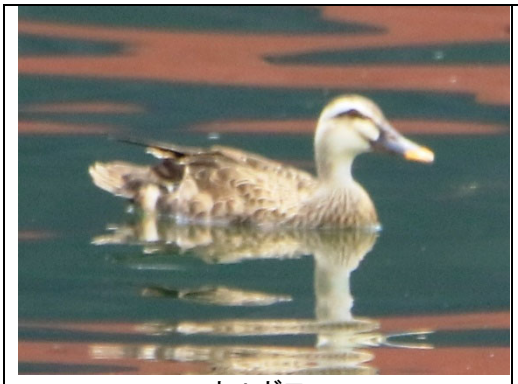
表 12（1）　鳥類確認種目録（第 1 回～第 6 回）

No.	種名	調査時期											
		第 1 回（H27 夏～H28 春）		第 2 回（H28 秋～H29 夏）		第 3 回（H29 秋～H30 夏）		第 4 回（H30 秋～H31/R1 夏）		第 5 回（R1 秋～R2 夏）		第 6 回（R2 秋～R3 夏）	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○			
2	ヒドリガモ									○	○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○				
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ウミアイサ		○					○	○	○			○
12	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	ミミカイツブリ			○								○	
14	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
15	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	ゴイサギ					○							
18	ササゴイ		○										
19	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	チュウサギ									○			
22	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	カッコウ科の一種											○	
25	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
－	ヤマシギ												●
26	タシギ								○				
27	キアシシギ									○			
28	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	キョウジョシギ					○	○						
30	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	カモメ	○	○			○							
33	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
35	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
36	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
37	ハチクマ	○											
38	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	ハイタカ		○		○					○			
40	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12（2）　鳥類確認種目録（第 1 回～第 6 回）

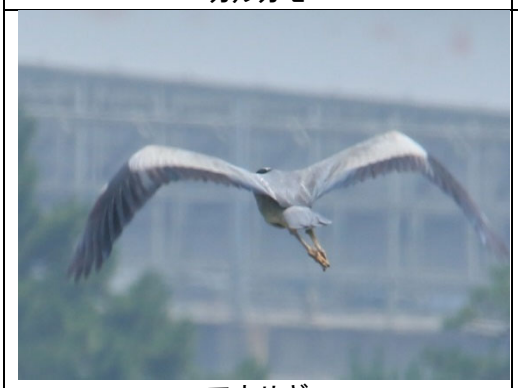
No.	種名	調査時期											
		第 1 回（H27 夏～H28 春）		第 2 回（H28 秋～H29 夏）		第 3 回（H29 秋～H30 夏）		第 4 回（H30 秋～H31/R1 夏）		第 5 回（R1 秋～R2 夏）		第 6 回（R2 秋～R3 春）	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
41	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
42	カワセミ			○			○			○		○	
43	チョウゲンボウ		○				○	○					
44	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
45	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
46	カケス				○								
47	オナガ			○	○	○	○			○			
48	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	ヤマガラ												○
50	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	ヒバリ						○						
52	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
55	オオムシクイ								○				○
56	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
57	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
58	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
59	コムクドリ				○	○							
60	シロハラ	○	○	○	○						●		○
61	アカハラ	○			○			○			○		
62	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
65	キビタキ	○				○							
66	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	キセキレイ			○									
68	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	セグロセキレイ				○								○
70	タヒバリ						○				○		
71	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	シメ							○				○	
73	ホオジロ	○		○	○			○		○			
74	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	オオジュリン			○						○			
76	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	77 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		49 種		47 種	

注 1. ●：自動撮影カメラのみで確認された種を示す。他調査回とは調査手法が異なるため、種数に計上しなかった。



カルガモ

カワウ

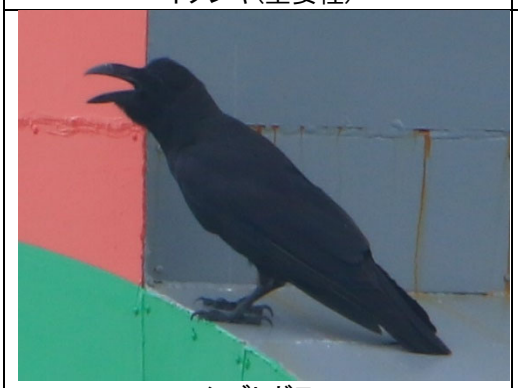


アオサギ

コサギ(重要種)

イソシギ(重要種)

ウミネコ(重要種)



ハシブトガラス

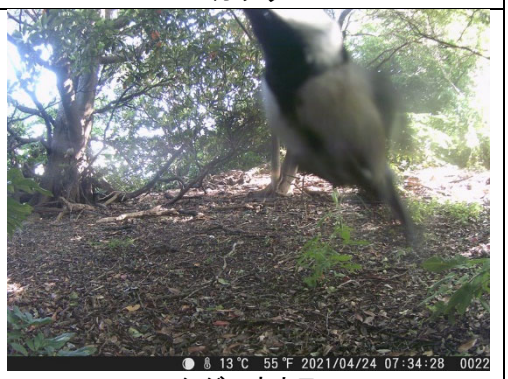
ツバメ

写真 2　鳥の島で確認された主な鳥類

キジバト

カワウ

オオタカ（重要種）



シジュウカラ

ハシブトガラス

ドブネズミ

写真 3　自動撮影カメラ確認された生き物